

堺にすむいきものや彼らのすみかのことをどのくらい知っていますか？

堺市の生物多様性にふれる冊子

のぞいてみよう  
堺市の生物多様性

堺いさものの通信

2022夏号

6月～8月に堺市内で見られる！

# 堺にすむ

# いきものたちの



ツリガネニンジン



クロハラアジサシ

ここでご紹介する写真はすべて堺市内で撮影された写真です！  
Webサイト「堺いきもの情報館」に、市民の方などからご投稿いただきました。  
個性豊かないきものたちや彼らのすみかを見て・知って、  
**生物多様性**を感じてみてください。



テングタケ



コガタルリハムシ



アブラゼミ

## 生物多様性とは――

すべての生物の間に違いがあること

たくさんの個性豊かないきものたちが、**つながり**をもって生きています。



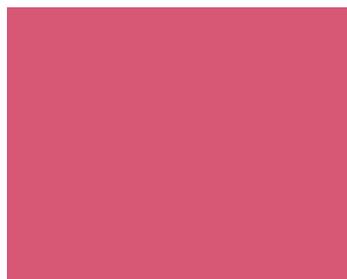
キキョウ



ホタルガ



アオサギ



ヤマカガシ

堺市の生物多様性を知るには「堺にはいろいろないきものがいて、いろいろなすみかがある」と知るところから！

いき

# もの知りになろう！

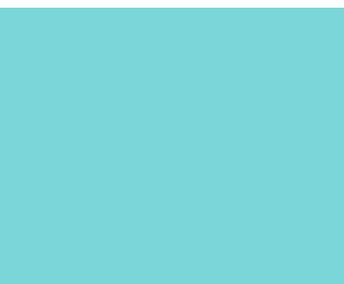
～夏の風物詩 ホタルのすみか～



写真のいきものは「ゲンジボタル」です。夏の風物詩として知られている昆虫の一種であり、たくさんの光が飛び交う幻想的な風景は見る人を魅了します。堺市では〔堺市レッドリスト2021〕のCランクに選定されていて、Cランクのいきものは〔堺市で減ってきている自然豊かな環境にすんでいて、守りたい環境の目安になる種〕と位置づけられています。実際、ゲンジボタルはきれいな川を好み、特に自然の豊かな場所にある小川周辺で姿が目撃されます。また、幼虫はカワニナという細長い巻貝を食べて育ちますが、このカワニナもきれいな川に生息するいきものです（ちなみにホタルは成虫になるとエサを食べず、水だけを飲んで過ごします）。これから先もずっと、ゲンジボタルやカワニナがすむ環境やそれらのいきものたちを守っていきたいですね。



ショウリョウバッタ



ベニイトトンボ



クマゼミ



セッカ

## いきものたちのすみか

### いきものたちはどこにすんでいるのか？

ここでご紹介する多くの写真にはいきものの姿だけでなく、多様な自然環境が写りこんでいます。彼らのすみかは多種多様です。

堺市内には草地のある公園やため池、河川、木々がしげる古墳や南部丘陵などといったいきものたちのすみかがたくさん存在します。みなさんの身近な場所にあるすみかにもいろんないきものたちがすんでいるはずですよ。

このように多様なすみかがあることを生物多様性の一つである「生態系の多様性」といいます。

**生物多様性とは身近なものですよ！**



ヒオウギ



ダイサギ

いき  
もっともの知りになれる！

# 生物多様性のおはなし

いよいよ本格的な夏の到来です。夏に鳴く生き物の代表格といえばセミ。堺市内ではこれまでに8種のセミの生息が確認されており、「ミンミンミン…」と鳴くミンミンゼミや「カナカナカナ…」と鳴くヒグラシ、「ジリジリジリ…」と鳴くアブラゼミ等々、鳴き声の特色豊かなセミたちがくらしています。

ここで質問です。＜みなさんにとって、馴染みのあるセミは何ですか？＞--ぜひ、ご自身の答えを周りの人と比べてみてください。住まいや年齢などによっては、答えが違ってくるでしょう。また、同じ堺市内に住んでいても、南部丘陵地と都心・周辺市街地といった環境の違いによっても、馴染みのセミに違いがみられるかもしれません。ではもう一つ質問です。＜近頃、鳴き声をよく聞くセミは何ですか？＞--クマゼミと答える方が多いのではないのでしょうか。それもそのはず、かつて関西ではアブラゼミが主流でしたが、1980年頃にクマゼミに置き換わったと言われています。クマゼミは午前中に鳴くことが多く、1本の木に複数匹が集まることもあるため、「シャアシャア…！！」という大合唱を朝から聞かせてくれます（セミの鳴き声は“夏の風物詩”か、はたまた“夏の暑さを助長する音”か。いずれにせよ、大合唱はすごい迫力です）。セミの主流が置き換わった理由はいくつかありますが、原因の一つは地球温暖化です。

地球温暖化とは、二酸化炭素などの温室効果ガスが排出されることにより、地球表面の気温が急速に上昇することをいいます。気温が上昇すると、生き物の生息地域や出現時期、開花時期などに影響が及び、生態系のバランスが乱れる恐れがあります。地球温暖化などの「地球環境の変化」は、生物多様性の危機における第4の危機とされています。地球温暖化は別名を「人為的気候変動」といい、第1～第3の危機に同じく、第4の危機も人間活動が招いた結果と言えるでしょう。地球温暖化という世界規模の問題を解決することは容易ではありませんが、小さな努力を皆で積み重ねていくことが大切です。生物多様性とはすべての命が存立する基礎であり、守らなければならないものなのです。

さて、本号を含めて4回にわたり、生物多様性の危機についてご紹介しました。難しいお話ばかりだったかもしれませんが、どれも大切なお話です。堺いきもの通信を通じて、少しでも多くの方に生物多様性について関心を持っていただけることを願っています。

参考文献：宮下直、瀧本岳、鈴木牧、佐野光彦著『生物多様性概論「自然のしくみと社会のとりくみ」』朝倉書店、2017-3-10  
環境省生物多様性ウェブサイト。「次期生物多様性国家戦略の策定に向けて」.<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>（参照2021-11-12）



堺市の生物多様性を考えるWEBサイト

＜編集・発行＞

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL：072-228-7440 / FAX：072-228-7317

E-mail：kankyo@city.sakai.lg.jp



Webサイト  
トップページ



Instagram  
アカウント